

『ぴかぴかの1年生』

市内小中学校で入学式



4月6日には、市内のほとんどの小中学校で入学式が行われました。真新しいランドセルを背に、「友だちいっぱいできるかな」と胸をふくらませる小学校1年生。新しい学校で、これまでとは違った体験への期待あふれる中学1年生。それぞれに顔を輝かせながら、明日からの毎日に期待しているようでした。

平良木議員が招かれた黒田小学校では、写真のように対面式で在校生と新入生が向き合う形。保護者の皆さんもわが子の姿をまっすぐに見ることのできる工夫がされています。

新入生はちょうど30人。学校規模としてちょうどいいところです。

PTA会長さんの「黒田小学校は全員がみんな一人ひとりのことを知っています。みんな大きな家族のように見守ってくれます。」という励ましが印象的でした。

日本共産党上越市議員団ニュース

No.177 2009年4月12日

連絡先 橋爪 法一 548-3628 (吉川区代石)
 樋口 良子 544-6802 (中門前3)
 上野 公悦 530-2203 (頸城区中柳町)
 平良木哲也 525-9096 (上中田)

福祉の拠点 交流プラザがオープン

旧高田盲学校を改造してできた福祉交流プラザがオープンしました。3日の竣工式には、関係団体や来賓など130人を超える人たちが集まって竣工を祝いました。式典では利用者の代表が期待の言葉をのべました。

「(出来上がった建物)とてもきれいで広くてびっくりしています。去年の秋ごろから仕事が少なくなってきたら(この建物の)お掃除の仕事が回ってきたとしても喜んでいきます。いままでよりも体を動かす仕事です。たくさんの人たちにこのプラザを利用してほしいと思います。」

障がいを持った人たちをも直撃したいまの不況の中で、仕事ももらえなかった喜びがよく伝わってきました。

この施設は、市民の福祉の拠点として、これまで散在していた窓口を集中。障がい者相談支援センターやこども

定額給付金支給手続き 窓口連日大賑わい

「定額給付金」の手続き窓口が、市役所1階ロビーに開設され、連日多くの市民が手続きに訪れています。

総額2兆円の給付金は、1回だけのばらまきではなく、医療や福祉・年金などもっと効果的などころに使うべきというのが多くの国民の声です。同時に、この経済危機で、当面いくらかでも入るものは大切にしたいというのも皆さんの実感ではないでしょうか。

も発達センター、地域包括支援センターなどを備え、日常的な相談業務にあたるほか、就業移行支援、日中一時支援、障がい者の就業・生活支援などの支援事業を行う、文字通り福祉の広場として大きな役割を果たすものです。

また、高田の中心部の交流の広場として、7つの会議室、調理実習室、ホールになる体育館、地域のふれあいルームなども備えています。

3階にある顕彰コーナーは、視力障がい者への教育機関として早くから実践に取り組んできた高田盲学校の歴史と、そこに学んだ子どもたちの資料が展示されています。

市川信夫さん原作の映画『ふみ子の海』に関する資料も展示されており、各種新聞に掲載された『ふみ子の海』制作の記事や市川さんへのお便りなどがたくさんあります。



竣工式オープニングを太鼓で飾ったかなやの里のみなさん

税制改正で国保税500人以上に影響

このたびの市町村税制改正で、国民健康保険税の介護分の課税限度額が9万円から10万円に引き上げられました。

これまで、所得の多い人でも最高で9万円払えばよかったものが、所得によっては最高で10万円払うこと

になります。

上越市ではこの改正で約500万円の増収を見込んでいるとのこと。

このことは、少なくとも500人以上の人に影響が出るということを示しています。